

# 肝移植後のお子さんの インフルエンザ

Ver.1.0



独立行政法人国立成育医療研究センター  
生体防御系内科部 感染症科 ・ 臓器移植センター 移植外科

## 目次

はじめに .....	2
1. インフルエンザについて .....	3
1) インフルエンザを疑う症状 .....	3
2) インフルエンザと潜伏期間 .....	3
3) インフルエンザの診断 .....	3
2. インフルエンザの予防について .....	4
1) インフルエンザの感染経路と予防 .....	4
2) インフルエンザワクチンの効果 .....	4
3) インフルエンザの時期のおでかけ .....	4
4) 保育園・幼稚園・学校で流行している時、通園・登校を休ませるべきか? .....	4
3. インフルエンザにかかったら .....	5
1) インフルエンザと薬 .....	5
2) 保育園・幼稚園・学校のお休みについて .....	5
3) ご家族のインフルエンザ .....	5
4) インフルエンザかな?と思ったら .....	6



## はじめに

肝移植を受けられたお子さんとご家族の皆様へ

今年もインフルエンザの流行が始まっています。どのような場合にインフルエンザを疑うのか、発症してしまった場合どうするのが良いのか、かからないようにするためにはどのような事ができるのかなどについてまとめましたので、日常生活の参考にして下さい。なお、こちらには肝移植を受けられたお子さんに、概ね共通する内容を示しています。移植後の年数や身体の状態によって判断が多少変わる場合もありますので、わからない点があればお問い合わせください。

2013年1月31日

独立行政法人国立成育医療研究センター  
生体防御系内科部 感染症科 ・ 臓器移植センター 移植外科



## 1. インフルエンザについて

### 1) インフルエンザを疑う症状

発熱（38.5 を超えるような高熱であることが多い）、咳、鼻水、関節痛、筋肉痛などが主な症状とされていますが、お子さんの場合、発熱でご両親が気付かれることが多いです。また、インフルエンザが流行しているこの時期は、たとえ微熱であっても心配なさって、当センターにお問い合わせをいただくことが多くあります。（ここで指す微熱、とはお子さんに免疫抑制剤を内服させる前に測定している体温が、体調の良い時に比べて若干上がっていることを指しますので、お子さんによって、それぞれ個人差があると思います。）

微熱があるときは、次のような項目をチェックしてみてください。

- 1- ミルクを飲む量、水分をとっている量
- 2- 離乳食、食事の量、食べる時の様子（食欲）
- 3- 活気があるか？機嫌はどうか？しっかりと眠れているか？

これらがいずれも普段と変わりなければ、自宅で少し様子を見ていただいてもかまわないでしょう。もし水分量、食事量が減り、活気がいつもよりなく、あやしても笑わず、不機嫌、遊ぼうとしない、ぐっすり眠れていない様子があれば、かかりつけの病院を受診してください。また微熱以外の症状や様子の変化はなくても、ご自宅の近くに、夜間熱が高くなったときすぐにかかれる病院がなく不安だ、という場合は、日中、一度受診されておいた方が安心できるでしょう。

### 2) インフルエンザと潜伏期間

インフルエンザの潜伏期間（感染してから症状がでるまでの期間）は1-4日です。よって、周囲にインフルエンザと診断された人がいて、その人と接触してから1-4日後に発熱などの症状が出た場合はインフルエンザである可能性が高くなります。

### 3) インフルエンザの診断

上記のような症状を認めた場合に受診されると、迅速検査（鼻の奥を綿棒でぬぐって行う検査）でインフルエンザが診断されることが多いです。ただし、発熱してから12時間以内は検査が陽性にならないことがあるため、発熱後すぐの時期には検査しないことがあります。場合によっては周囲の流行状況と症状などから検査なしでもインフルエンザと診断することもあります。



## 2. インフルエンザの予防について

### 1) インフルエンザの感染経路と予防

インフルエンザウイルスは、飛沫（ひまつ）感染といって咳などで飛散した唾液などを介して感染が広がります。予防するためには人ごみではマスクをすること、手洗いをきちんとすることが重要です。また、ご家族など一緒に過ごしている方が咳、鼻水などの症状がある時は、症状のある方がマスクをするようにしましょう。また、ワクチンも有効ですので、毎年インフルエンザシーズン前にご家族も含めて接種するようにして下さい。

免疫抑制状態が強い場合で、インフルエンザを発症した人と濃厚接触（ご家族内での発症など）した場合、状況によっては抗インフルエンザ薬を予防的に使用することがあります。このような状況の場合はご連絡下さい

### 2) インフルエンザワクチンの効果

季節性インフルエンザのウイルスは3種類（A/H1N1亜型、A/H3N2亜型、B型）があり、混合ワクチンとしてインフルエンザを予防します。ウイルスの突然変異などによって効果が低下する可能性が0ではありませんが、やはりワクチンの効果は期待し、ご家族みなさんが接種していただきたいところです。ワクチンは当センターだけでなく、お近くのかかりつけの病院で接種していただいてもかまいません。移植を受けられたお子さんはワクチン接種可能な状態かどうか、主治医に確認してから接種するようにして下さい。ただし、ワクチンは効果がでるまでに2-3週間くらいかかるので、流行が始まる前に接種することが重要です。ワクチンをうっても、インフルエンザにかかってしまうことはありますが、重症化を防ぐ効果を期待できます。

### 3) インフルエンザの時期のおでかけ

この時期、なるべく人ごみや密集空間は避けましょう。混雑した電車に一定時間乗らなければならぬような機会は、避けることが望ましいです。うがい、手洗い、マスクは忘れずに。

### 4) 保育園・幼稚園・学校で流行している時、通園・登校を休ませるべきか？

学級閉鎖になっていない場合、お子さんを通園・登校させて良いかどうか、悩むご両親は多くいらっしゃいます。ご本人がとても元気であれば、通園・登校してもかまいません。ただし、感染に備えて手洗いやうがい、マスクをしっかりと行ってください。また十分バランスの良い栄養をとり、身体が冷えないように気をつけ、室内の空気の乾燥が強いようであれば、加湿に注意しましょう。学級閉鎖になっていなくても、お子さん自身が体調が優れないときは、予防的にお休みさせましょう。



### 3. インフルエンザにかかったら

#### 1) インフルエンザと薬

インフルエンザは、ほとんどの場合特に治療をしなくても自然に治る病気です。ただし免疫力が落ちている状態の場合は重症になることもあり、抗インフルエンザ薬を使用して治療をした方がよいとされています。移植を受けられたお子さんは肝臓を守るために免疫抑制剤を内服しておりますので、インフルエンザを発症した場合は抗インフルエンザ薬を使用することが望ましいと考えられます。現在、日本で使用されている抗インフルエンザ薬はタミフル（内服）、リレンザ（吸入）、イナビル（吸入）、ラピアクタ（点滴）の4種類があります。内服がよいか、吸入がよいかなどはお子さんの年齢や症状などによって異なりますが、基本的に治療効果はどれも同じです。肝移植を受けたことにより抗インフルエンザ薬による副作用が特に強く出ることはないとされていますが、喘息があると吸入薬は使いづらいなど、お子さんごとに注意すべき点がありますので処方してくれる医師とご相談ください。抗インフルエンザ薬は発熱後48時間以内に使うと効果的と言われているので、インフルエンザを疑う症状が出現した場合は早めに医療機関を受診するようにしましょう。

#### 2) 保育園・幼稚園・学校のお休みについて

インフルエンザは学校保健安全法で第二種の感染症（飛沫（ひまつ）感染するもので学校において流行を広げる可能性が高い感染症）と位置づけられています。インフルエンザにかかってしまった場合、学校や保育園はいつまで休む必要があるか、気になるところですが、学校は発症してから5日を経過し、熱が下がってから2日を経過するまでが出席停止期間になります。保育園、幼稚園では発症後5日間という条件は同じですが、熱が下がってから3日を経過するまでが出席停止期間となります。

#### 3) ご家族のインフルエンザ

お父様、お母様のどなたかがインフルエンザにかかったら、高熱だけでなく筋肉痛、関節痛、倦怠感を強く感じることでしょう。泣いているお子さんを、抱っこしてあやしたり、家事をしたり、外に買い物にでかけたり、お子さんと一緒に遊ぶのも大変なことでしょう。体調不良を長引かせないためにも、できるだけ早めに十分な食事と休息をとってください。インフルエンザにかかっていないお父様、あるいはお母様に、お子さんのお世話を任せることが望ましいです。お子さんの兄弟姉妹がインフルエンザにかかってしまった場合、自宅内の狭いスペースの中で、子ども同士の接触をさせないようにすることは難しいとは思いますが、できるだけ飛沫（ひまつ）感染のリスクを下げるために、家の中でもマスクをさせておいた方が良いでしょう。



#### 4) インフルエンザかな?と思ったら

38.5 以上(わきの下での測定値)あったら、次のフローに沿ってお考えください。

- 1- (日中の場合)まず、当センターにお電話ください。ミルク、食事、水分量、その他脱水となる要因があるか(下痢・嘔吐など)をお伺いいたします。その時点で脱水状態の可能性があれば、当センターの救急外来を受診していただき、点滴治療を行います。当センターから遠方にお住まいで、すぐに来院することが難しい場合は、かかりつけの病院を受診してください。なお、解熱剤(カロナールなど)を内服すると、感染の状態を判断するための指標(熱の上下の具合)がわからなくなり、免疫抑制剤(プログラフ)の内服判断ができなくなるため、飲ませないでください。元々抱えているお子さんの病気の種類によっては、解熱剤が必要な場合もあるため、医師にご相談ください。
- 2- 夕方、体温測定し、当センターへお電話してください。熱の状況によって、その日の夜の免疫抑制剤を内服するかどうか、医師が判断します。
- 3- 翌朝、熱が下がらず、脱水症状も改善がない場合は、当センターへお電話ください。通院による点滴、あるいは入院治療が必要かどうか、医師が判断します。

自宅で過ごす場合、脱水を予防するために十分ミルクや水分をとれるようにしてください。鼻水等によってミルクが飲みにくそうな場合は、1度にたくさん飲ませるのではなく、1回量を減らして、お休みさせながら、回数を増やしてあげましょう。大きい年齢のお子さんも栄養と休息がしっかりとれるように気を配ってください。

みなさまの理解の助けになればと思い、こちらの資料をご用意いたしました。インフルエンザに関してご不明な点がございましたら、お急ぎの場合を除き、ぜひメールをご活用ください。お電話でお問い合わせをいただいた場合、申し訳ございませんが、手術(定例手術日は木曜日ですが、それ以外の曜日でも緊急手術が入っている場合があります) 処置、診察、移植に関する面談等により、すぐに対応できない場合もございます。



国立成育医療研究センター 臓器移植センター Eメール  
[transplant@ncchd.go.jp](mailto:transplant@ncchd.go.jp)





---

肝移植後のお子さんのインフルエンザについて Ver1.0

2013年1月

独立行政法人国立成育医療研究センター

生体防御系内科部 感染症科 ・ 臓器移植センター 移植外科

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1

---

許可なしに転載することを禁じます

